



今号は、4月に6年生が受けました『全国学力・学習状況調査（全学調）』の結果と7月に児童・保護者・教職員から回答を得た『学校評価アンケート』の結果を載せています。全学調においては、下学年の学習内容とのつながりを分析をし、全ての学年の担任が今後の取組において強化していく内容等を確認しました。また、学校評価においては概ね良好な評価結果でしたが、課題には丁寧に向き合い、学校総体としての取組をそれぞれの主査がリーダーシップをとって取組を進めることを確認しました。ご家庭や地域からのご協力も引き続きよろしく願いいたします。

全国学力・学習状況調査結果より

国 語	算 数
平均正答率 62% 全国(60.9%)・県(59%)を上回った。 資料を用いた表現の工夫や話の構成、特に「読むこと」と結びついた記述では、高い成果が見られる。例えば、「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結びつけてまとめて書く」設問は、正答率100%（全員正答）であった。 文の中で正しく漢字を使うことをはじめ、語句、言葉のきまりなどの基礎的な知識・技能の定着について課題がみえた。	平均正答率 61% 全国(56.4%)・県(55%)を上回った。 単純な計算だけでなく、問題場面を読み取り、必要な情報を選び、式や言葉で考えを表す力が比較的高い。例えば、「表の誤りを見付け、根拠を数と言葉で書く」設問の正答率は、本校が全国を28.4ポイント上回り84.6%であった。 身の回りのものを図形として捉え、図形を構成する要素に着目して考察する力に課題がある。また、図や表で項目の関係を正しく捉えたり、条件にあう数値を読み取ることもつまづきが見える。



《全担任で分析を共有し、各学級で実態に応じた重点化を図ります！》

- 作文や日記、ふりかえり文の中で、既習漢字を使う機会を増やす
- 読み解く力の育成を目指して、継続的に全学年共通した取組を進める
- 学習内容と生活場面や身近にあるものとのつながりに気付かせる発問や教材の工夫 等

児童質問紙(i-check)

Q 分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができているか。【学習意欲】 肯定率 92.3%（全国79.4%） *全国・県より高い水準にある。 Q 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。 肯定率 84.6%（全国78.4%） *学習の振り返りを大事にする授業が定着している。	Q 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強するか。【家庭学習習慣】 1時間以上 平日53.9%（全国49.9%） 休日23.1%（全国39.0%） *家庭との連携をさらに深めていきたい。 Q 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか。 肯定率 92.3%（全国80.1%） *地域学校協働活動の充実によるところが大きいと考える。
--	---

裏面に続く→

R8 学校評価(前期)

— 児童 — — 保護者 — … 教職員

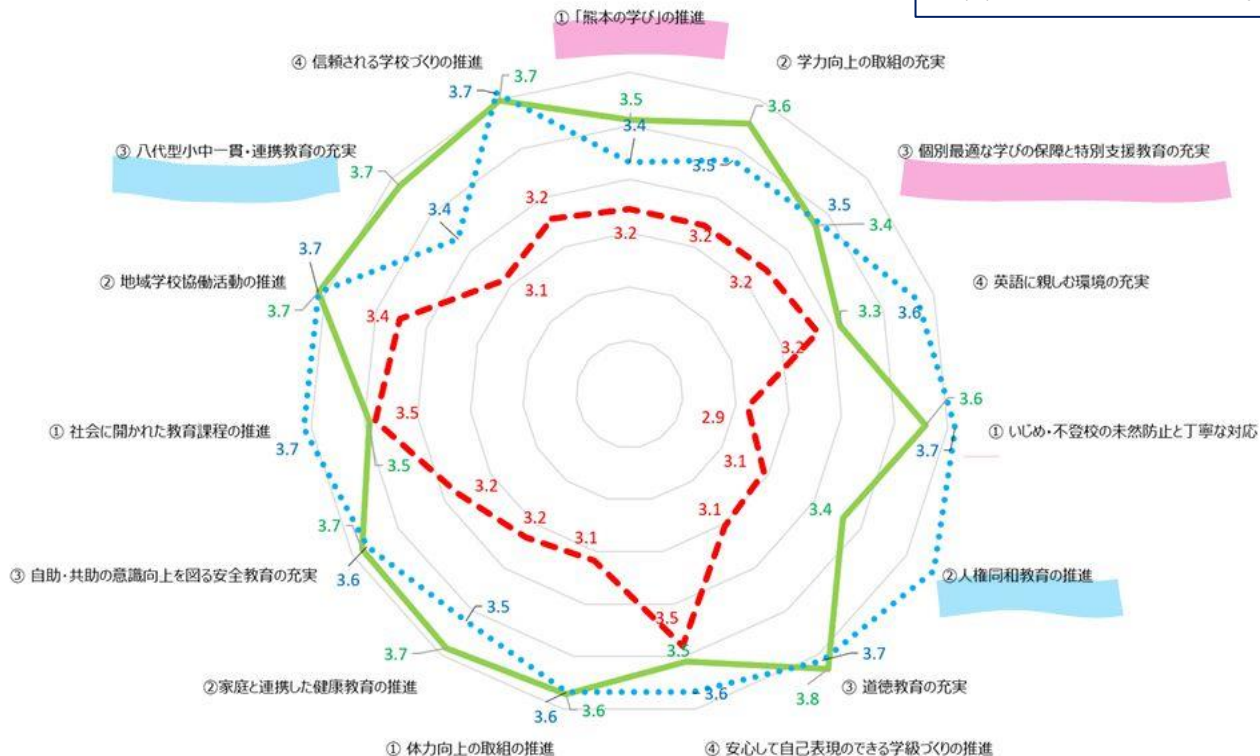
《回答率》

【児童】 96.1%

【保護者】 68.5%

【教職員】 100%

次回は12月に実施します。



2学期は、以下の4点に特に力を入れて取り組みます

学び①「熊本の学び」の推進

「なぜ？」
「なるほど！」
を大切に！



- ・話すとき、聴くときの約束事を徹底し、相手意識をもって話し合う場を設定
- ・ペア学習の充実
- ・生活や次の学習につながる振り返りの充実

学び③ 個別最適な学びの保障と特別支援教育の充実

自分をみつめる
自ら学ぶ！



- ・調べ学習、振り返り活動、苦手克服学習、難題チャレンジ学習など、様々なタブレット活用場面を設定
- ・ICT操作スキルアップのために、朝学習の時間や授業の隙間時間を活用

仲間② 人権同和教育の推進

思いを伝える
思いを受け取る！



- ・相互理解が深まる機会の設定
- ・人権啓発に係る委員会活動の工夫
- ・思いを言語化するための支援の充実

地域③ 八代型小中一貫・連携教育の充実

土台をつくる
学びをつなげる！



- ・「家庭学習の手引き」の活用推進
- ・人権学習における「共通教材」の確実な実施
- ・「ノーメディアデー」の定着に向けた取組
- ・「やつしろスピリッツ」の意識化を促す取組